



新潟地本で 新たな仲間が加入!



よい良い職場環境を実現するため
東日本ユニオンで共にガンバロウ!

架線凍結対策としての
カッター車の評価を質す
と、架線凍結の影響を受け
た列車の本数は減ってい
るとした上で、E1は今後

昨冬期の教訓を今冬期に活かそう!

2022年度申19号・2022年度冬期検証に関する申し入れ団体交渉

新潟地本は9月4日、2022年度申19号・2022年度冬期検証に関する申し入れの団体交渉を行いました。
昨年度の冬期を振り返ることで今2023年度の冬期に向けた教訓とするために、除雪体制や車両・設備、サービスの視点などから申し入れを行っていたものです。

昨年度冬期の振り返り——成果と課題は
昨年度冬期の取り組み塗りして効果があつたことにおける成果を明らかにすると成果としました。
設備系統としては、2800本を計画していた近接木の伐採について、短期間で多量の降雪を加味して4000本近く伐採しました。

課題を質すと支社側は、列車の運休に対して空振りもあつたことを挙げ、予想より降らなかつた時の復活運転については難しい判断だとしました。
お客さまからの苦情については「降っていないのに運休」という声はあり、車両の運用の関係などから実情と合わずにお叱りを受けたとしました。

MR除雪について質すと、パターン除雪にしたことで打合せ回数が減り、作業を行うパートナー会社から評判を得たこと上、タイムリーな除雪は課題であるが柔軟に対応できているとしました。
架線凍結対策としてのカッター車の評価を質すと、架線凍結の影響を受けた列車の本数は減っているとして、E1は今後



廃止となるが、現在車両はあるので今冬期も動かす

今冬期に向けた課題と対策 進捗を質す

倒木対策として実施された4000本の伐採の内訳を質すと支社側は、信越線が約1000本、磐越西線が約950本で、残りはその他線区としました。
今冬期は伐採を行つているのか質すと、近接木について腐ったり、倒れたりしているものから決定して春先から工事を発注していることとしました。

E653系の全6編成で、トイレと水管凍結による不具合が発生した原因を質しました。
支社側は、E653系の水タンクは車体の中心にあるため、そこから車内へ行く配管の多くが記録的寒さで凍結に至り使用できなくなつたとしました。
対策について質すと、メーカを含め対応検討中であり、改造にあたる内容まではまだ現時点で示せるものないこととしました。
また車両以外ではパン上げ留置対応などの方法

予定であることとしました。
運転士によるポイント不転換対応について質すと、ポイント不転換自体はあつたが、乗務員対応まではなかつたとしました。
車両の暖房予熱廃止の課題と成果を質すと、寒い・暑いなど体感に起因する声があつた一方で、休憩が確保できるなど一定の効果があつたとしました。
屋根やルミネーターの設置などができないか質すと、費用やスペースの関係もあり、今のところ対策はないこととしました。
MR除雪を直轄で行う場合は教育訓練を受けた社員が行うよう求め、必要

運転士が不安なく正しい作業を行える作業環境を求め申し入れ

今年3月のダイヤ改正より新潟車両センターと旧・長岡車両センターで行われていた折り返し点呼が廃止され、Joitaに配信される情報を乗務員自身が確認する方法により、把握した番線において出区点検などの作業を行う方法に変更されました。
新潟地本は2022年度申12号・2023年3月ダイヤ改正及び「営業・運輸車両職場における体制の見直しについて」に対する申し入れの団体交渉において、出区番線の誤認を防止する観点から点呼による相互確認の重要性を



- 申4号 申し入れ項目
- 1. 新潟車両センター、旧長岡車両センターでは出区番線、車両状態等を相互に確認・意思疎通できる点呼体制を構築すること。
- 2. 時刻表・列車別注意事項・いわゆるF券の表記を見直し、正しい作業が不安なく行える作業環境を構築すること。

るようにするようになりました。
架線切断が多発した対応を質すと、パンタグラフは今の形状のままとなり、Pan圧も変えられないことから、引き続きパンタグラフの雪払い等を実施していくしかないのが現状だとしました。
組合側は、パートナー会社では人手が足りず、本日も出勤したことがあつたが、前日の計画と当日の作業が違つていて必要な教育を受けられなかつた社員もいたと訴えました。
支社側は、冬期教育は毎年行つていて、訓練を受けて乗せているとの認識を示しました。
組合側は、本人の不安は解消した中で体制を取るように強く求めました。
また、ダイヤ改正から半年が経過し、見直しが行われた、いわゆる「F券」の様式を含め、間違のない正しい作業を行うことに對する不安や、作業環境の改善を求める声が多く上がっています。
新潟地本は9月28日、申4号・運転士が不安なく、正しい作業が行える作業環境を求める申し入れを提出しました。